

すばる  
一番星  
日は?

# 九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No. 293  
2016(平成28)年11月23日(水)発行

●9月9日に死去の加藤紘一元自民党幹事長の葬儀で、山崎拓元党副総理が弔辞を読みました。その中で加藤氏が2年前、「**憲法9条の一言一句も改正には反対だ。9条が日本の平和を守っているんだよ**」と語っていた秘話を披露。山崎氏は現自民党中央に言いたかったのか。●また、10月27日に100歳で死去の三笠宮さまは、従軍体験から戦争への批判を貫き、70年前の終戦直後、天皇の譲位を容認する考えを持っていた。つまり**戦争責任のために兄の昭和天皇の退位を熟考していた**と言う。

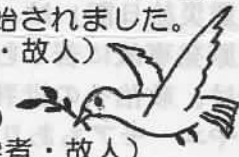


## 伊藤真弁護士・田中優子法大総長ら12名が「九条の会」新世話人に

■2004(平成16)年の「九条の会」呼びかけ人の9氏。その呼びかけで全国に7,500の「九条の会」が生まれ活動が開始されました。

井上ひさし(作家・故人)  
梅原猛(哲学者)  
大江健三郎(作家)  
奥平康弘(憲法学者・故人)  
加藤周一(評論家・故人)  
鶴見俊輔(哲学者・故人)  
澤地久枝(作家)・「日本は独裁国家になったのか」  
小田実(作家・故人)  
三木睦子(三木武夫の妻・故人)

でも、ご健在の方は3名だけです。



■そこで9月25日、東京の明治大学での「第6回全国交流討論集会」で新たに12名の世話人が発表されました。

- ①愛敬浩二(名古屋大教授・憲法学)
- ②浅倉むつ子(早稲田大教授・労働法)
- ③池内了(名古屋大名誉教授)・「市民運動で防衛省の研究費応募が激減」
- ④池田香代子(独文学翻訳家)
- ⑤田中優子(法政大総長・江戸文化研究者)
- ⑥伊藤真(弁護士)・「司法を国民の力で変えていきたい」
- ⑦高遠菜穂子(ボランティア活動家)
- ⑧清水雅彦(日体大教授)・「九条の会が存在しなくてもいい社会をめざそう」
- ⑨内橋克人(経済評論家)
- ⑩山内敏弘(一橋大名誉教授・憲法学)
- ⑪伊藤千尋(元朝日新聞記者)・「九条の会の元気で、この社会を変えよう」
- ⑫高良鉄美(琉球大教授)

## 市の「憲法」冊子配布 11月3日「朝日新聞」社説でも紹介

◇市の『憲法』冊子配布は、11月3日文化の日(憲法公布の日)の『朝日新聞』社説でも紹介され、**<下記コピー>**はその社説の後半部分で、13条「幸福追求権」や25条「生存権」に言及しています。

### 憲法公布70年

## 何を讀み取り、どう生かす

問われる幸福追求権

福島県南相馬市が今年5月、憲法全文を収めた冊子2万部あまりを全戸配布した。

同市では、福島第一原発事故によって、住民の多くが慣れない避難生活で体調を崩し、命を落とした。災害関連死者は全国最多の487人にのぼる。

「憲法の保障するはずの『健康で文化的な生活を営む権利』が剝奪された瞬間があった」と桜井勝延市長は振り返る。

同市南部に出された避難指示は7月に解除されたが、1万4千人いた住民のうち戻ってきたのは約1100人に過ぎない。

桜井市長は言う。

「憲法がいう、国民が幸福を追求する権利とはどういうものか。もう一度、憲法を讀み、みんなで冷静に考えようということだ。」

憲法13条は、すべての国民が「個人として尊重される」とうたい、その「生命、自由及び幸福追求に対する権利」を最大限尊重するよう国に求める。未曾有の原発事故が、その意義を問い直している。

平和主義、人権の尊重、民主主義。憲法には、人類がさまざまな失敗の経験から学んだ知恵と理念が盛り込まれている。

戦後の平和と繁栄に憲法の支えがあり、憲法が多くの国民に支持されてきたのは確かだ。一方で、憲法の知恵と理念は十分に生かされてきただろうか。

安倍首相が憲法改正に意欲を見せるなか、今月10日に衆院憲法審査会の議論が再開される。だが改憲を論じる前に、もっと大事なことがある。

一人ひとりの国民が憲法から何を讀み取り、どう生かしているか。きょう公布70年を迎える憲法の、問いかけである。

◇また、11月5日「信濃毎日新聞」・特集「憲法公布70年」にも、長野県安曇野市に避難している南相馬市小高区佐藤信行さん(72歳)が、市から配布された『憲法』冊子の全条を讀み、特に憲法第25条「生存権」に引きつけられたこと、5年過ぎても戻らない生活の状況が大きく掲載されています。

<会員さんより> ○原町区の会員加藤百代さんから次の2つのご意見をいただきました。

① 自分のお墓に「9条全文」を刻んだ詩人栗原貞子さんのこと

『生ましめんかな』の詩で有名な、広島の反戦・反核の被曝詩人栗原貞子さんの墓に、写真のように「護憲」と「憲法第9条」が刻まれていることに感動し、あらためて反戦の思いを共感しました。」



② 朝倉さんの福島民報連載「震災絵日記」を単行本にしてほしい



「鹿島区の画家朝倉悠三さん（はらまち九条の会会員）が描く『福島民報』に連載中の「震災絵日記」は、3.11の大震災以来、特に原発事故に苦しむ私たちの姿を逐一描き続け、政治への批判も風刺も巧みで、温かさやユーモアもあります。ぜひ、「震災絵日記」を単行本として出版してほしいと考えています。皆さんでハガキなどで、福島民報社にお願いしてみませんか。」

◀11月13日『福島民報』の「震災絵日記」

<<事務局より>>

年会費の納入ありがとうございます（会計 井上）

- ◆前回の会報郵送とともに、年会費未納の方に<郵便振込用紙>を同封しましたが、多くの方から持参や、総会での納入も有難う御座いました。
- ◆未納入の方は①事務局員に直接手渡し、②郵便局の<払込用紙>で納入してください。口座記号02260-1・口座番号89911・加入者名はらまち九条の会（手数料130円が必要）

10月23日の総会ご出席、また映画会もお疲れ様でした。映画『日本と原発・4年目』はどうだったでしょう。「2時間18分で、ちょっと長過ぎるよ」という感想も。「総会資料」をご希望の方は事務局井上までご連絡ください。

戦没者慰霊に尽力された八牧美喜子さんをはじめ、今年のご高齢の会員さんが7名も亡くなっています。心よりお悔やみ申し上げます。

本会は2005(平成17)年12月7日の発足です。もう満11年で12年目に入ります。会員の皆様のご理解とご協力で、なんとかやってこられた会です。ありがとうございます。この会報が2016年最後の号です。

来年こそ明るい年になりますように祈念しています。ご自愛の上、よいお年をお迎えください。

◆11月22日(火)午前5時59分、福島県沖M7.4の地震が発生。また原発や放射能を心配しなければならぬなんて、もしもまた避難になったら…。こんなことで東京五輪なんて開催できるのか。

<<「はらまち九条の会」事務局市外局番はTEL0244>>

- 会長：平田慶肇（ひらた けいいち） TEL24-1211・FAX24-4825
- 事務局長：早坂吉彦 〒975-0016南相馬市原町区仲町2-161 TEL22-0326
- 事務局次長：山崎健一 TEL090-7527-5453 Eメール：yamazakiken1@gmail.com
- 会計：井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892
- 石田賢二 TEL080-5556-4037 ○番場恵子 TEL22-0715 ○志賀勝明 TEL090-9530-5524
- HP：大浦祥見 TEL24-0704 ○栗村文夫・桂子 TEL090-8851-6904 ○田中徳雲 TEL090-2796-4066

来年1月8日(日)成人式にも  
チラシやプレゼントを!  
12:00~  
ゆめはつり